実務経験のある教員等による授業科目一覧**【生涯スポーツトレーナー介護福祉学科】**

授業科目	単位数	実務経験のある科目担当教員の氏名		
介護の基本Ⅲ	4	橋本協子		
生活支援Ａ	4	石橋真由美		
生活支援Ｃ	1	石橋真由美		
生活支援Ｄ	2	石橋真由美		
生活支援Ｅ	2	柴田仁子		
生活支援Ｆ	2	石橋真由美		
介護過程Ⅱ	2	石橋真由美		
介護過程Ⅲ	4	石橋真由美		
介護総合演習Ⅰ	4	石橋真由美		
介護総合演習Ⅱ	4	石橋真由美		
介護実習	15	石橋真由美		
合　　計	**44**			

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業の担当者
人間の理解	（講義・演習・実習）	井上由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間　(2)	1 年　前期	必修

【授業の目的・概要】

老い、病、障害などによって生活困難を生じている人々への生活支援の基盤となるのが、「人間の尊厳と自立」いう概念である。介護実践において人間の尊厳と自立がどのように活かされているかを学ぶために、生活場面の事例をもとに高齢者や障害を有する人々の尊厳の保持と自立について基本となる考え方を学ぶ。

【到達目標】

1. 人間の尊厳と自立が人間の幸せに深く関わっていることを理解する。
2. 人権思想がどのような経緯で発展してきたか理解する。
3. 基本的ニーズと生活支援の関連を理解する。
4. 人間の尊厳と自立が生活支援においてどのように活かされているかを理解する

【授業のテーマ・内容】

1. 人間を理解するということ
2. 人間の尊厳の意義
3. 自立の意義
4. 自立と自律
5. 人間の尊厳と自立
6. 人権、そして尊厳と自立の思想
7. 人権、そして尊厳と自立をめぐる歴史的経緯
8. 人権、そして尊厳と自立に関する諸規定
9. 生活を通して人間の尊厳と自立を考える
10. 生きる勇気の回復、そしてよりよき人生を送るために
11. 介護における権利擁護と人権尊重
12. 介護における自立支援
13. 介護における尊厳保持の実践
14. 介護における自立支援の実践
15. まとめ

【使用テキスト】	【評価方法】
新・介護福祉士養成講座１『人間の理解』 中央法規	試験 80%　　授業への参加度 20%

授 業 概 要

授業のタイトル(科目名)	授業の種類	授業担当者
社会と制度の理解Ⅰ	(講義 ・ 演習 ・ 実習)	井上 由紀子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必須・選択
15回	30 時間(2)	2年 前期	必須

【授業の目的・概要】
人を理解するためにはその人の生活を理解することが出発点となる。個人を構成員とする家族、あるいは地域社会、そして参加する組織や集団が、個人とどのようにつながっているかを考え、さらにはデータをもとに変化するライフスタイルについて学ぶことで、生活支援や福祉の体系を理解する。また社会保障の役割や意義、理念と範囲、社会保障の歴史、制度の仕組み、現代社会における社会保障の歴史、制度の仕組み、現代社会における社会保障の位置づけと今後の課題についても学ぶ。

【到達目標】
1. 現代におけるライフスタイルの変化について理解する。
2. 生活の支援と福祉の体系について説明できる。
3. 社会保障制度の基本的な考え方を理解する。
4. 社会保障制度の仕組みについて説明できる。
5. 現代社会が抱える社会保障制度の課題を理解する。

【授業のテーマ・内容】
1. 人と生活
2. 家族の機能と役割
3. 地域社会と個人
4. 人と社会
5. 現代におけるライフスタイルの変化
6. 生活の支援と福祉の体系Ⅰ
7. 生活の支援と福祉の体系Ⅱ
8. 社会保障の目的と機能
9. 日本の社会保障制度の展開Ⅰ
10. 日本の社会保障制度の展開Ⅱ
11. 日本の社会保障制度のしくみⅠ
12. 日本の社会保障制度のしくみⅡ
13. 日本の社会保障制度のしくみⅢ
14. 現代社会と社会保障制度
15. まとめ

【参考図書】
1. 藤見純子・西野理子編『現代日本人の家族―NFRJからみたその姿』有斐閣 2009年
2. 大江正章著『岩波新書 地域の力―食・農・まちづくり』岩波書店 2008年
3. 白波瀬佐和子著『生き方の不平等―お互いさまの社会に向けて』岩波書店 2010年
4. 椋野美智子・田中耕太郎『はじめての社会保障―福祉を学ぶ人へ第11版』有斐閣 2014年

【履修上の注意】

人間の理解、介護の基本などの科目と関連しています。

【評価方法】

試験80%　　授業への参加度20%

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
社会と制度の理解Ⅱ	（ 講義 ・ 演習 ・ 実習 ）	井上 由紀子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必須・選択
15回	30 時間(2)	2年 後期	必須

【授業の目的・概要】
2000年4月から始まった介護保険制度は、それまではとかく家族の問題と捉えられていた高齢者介護を、社会全体で支えていくべきものとして人々のなかに定着させた。また2006年から障害者自立支援法（現・障害者総合支援法）が施行され、障害者の自立と地域生活の実現を図るための支援が障害者支援の基調となっている。このように、高齢者や障害者が自分らしい生活を送るためには、本人や家族の生活を支えるさまざまな社会制度が必要である。
本講義では利用者の権利や生活を支える主な社会制度として、介護保険制度の基本的な仕組みや運用と、障害者総合支援法を中心とした障害者支援の制度について学ぶ。

【到達目標】
1. 介護保険制度の目的と仕組みについて理解する。。
2. 介護保険制度改正の流れと地域包括ケアについて理解する。
3. 障害者自立支援制度の目的と仕組みについて理解する。
4. 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割について理解する。
5. 介護実践にかかわる諸制度について理解する。

【授業のテーマ・内容】
1. 介護保険制度創設の目的
2. 介護保険制度のしくみ
3. 介護保険制度にかかわる組織とその役割
4. 介護保険制度における専門職の役割
5. 介護保険制度改正の流れと地域包括ケア
6. 障がい者の自立
7. 障害者自立支援制度創設の目的と動向
8. 障害者自立支援制度のしくみ
9. 障害者自立支援制度にかかわる組織とその役割
10. 障害者福祉施策のゆくえ
11. 人々の権利を擁護する諸制度
12. 保健医療にかかわる諸施策
13. 医療にかかわる法と諸施策
14. 生活を支える諸制度
15. まとめ

【テキスト】
最新 介護福祉士養成講座 社会の理解 中央法規出版
授業中にプリントを配布します。

【履修上の注意】
人間の理解、介護の基本などの科目と関連しています。

【評価方法】
試験70% 授業への参加度30%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	人間関係とコミュニケーション			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　　期	2	1 年次	井上由紀子	必修・選択　　必修

目的・概要	介護福祉士が学ぶべき人間関係には、少なくとも①生活者（利用者）を取り巻く人間関係、②利用者・介護専門職間の人間関係、③介護専門職間および多職種間の人間関係の３つがある。①についてはそれぞれの主観的状況および客観的状況を過去からの経緯も踏まえて把握ことが大切である。②では、介護専門職は対人援助職として専門的な援助関係を築かなければならないことを理解する必要がある。 人間の尊厳と自立を基盤として介護過程を展開するためには、自己覚知、受容、共感などの専門的技能に立脚した関係を築くことが必要で、介護専門職自体が利用者の生活機能に重大な影響を与える「環境因子」であるという認識が必要である。
到達目標	① コミュニケーションと人間関係について理解できる ② コミュニケーションの意味を理解できる ③ 言語的コミュニケーションと非言語的コミュニケーションを説明できる ④ コミュニケーションにおける対人距離のあり方が説明できる
スケジュール	１．関係づくりのための人間理解　―個々人の認知世界 ２．関係づくりのための人間理解　―人生というドラマの主人公 ３．関係づくりのための人間理解　―ストレスについて考える ４．関係づくりのための人間理解　―利用者の捉え方 ５．人間関係の形成　―人間関係の広がり ６．人間関係の形成　―発達と人間関係 ７．人間関係の形成　―介護職支援と対人関係 ８．コミュニケーションの基礎　―コミュニケーションとは ９．コミュニケーションの基礎　―コミュニケーションの目的と方法 １０．コミュニケーションの基礎　―コミュニケーションを促す環境 １１．コミュニケーションの技法と実際　―コミュニケーション技法を知る １２．コミュニケーションの技法と実際　―コミュニケーションの技法と実際① １３．コミュニケーションの技法と実際　―コミュニケーションの技法と実際② １４．コミュニケーションの技法と実際　―コミュニケーション技法を活かす １５．まとめ
事前・事後学習	時間中に事後学習の課題と次回授業のための課題を提示する
教科書	新・介護福祉士養成講座１　「人間の理解」　　中央法規
履修上の留意点	
評価方法	試験　80%　　授業への参加度　20%

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
地域福祉論	（講義・演習・実習）	

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間　（2）	1 年　後期	必修

【授業の目的・概要】

社会的な孤立や孤独と、地域におけるつながりや見守りをめぐって、その担い手の動向を検討するとともに、子ども、障害、高齢の各分野における実践の具体的な取り組みについて考える。

【到達目標】

1. 社会的孤立について理解する。
2. 社会福祉協議会の取り組みについて説明できる。
3. 市民ネットワークの必要性について理解する。
4. ボランティア活動の意義について説明できる。

【授業のテーマ・内容】

1. 社会的孤立について考える１
2. 社会的孤立について考える２
3. 社会的孤立について考える３
4. 地域福祉にかかわるサービス
5. 地域福祉の形態１
6. 地域福祉の形態２
7. 地域福祉の担い手１（住民参加と参画、専門職の役割）
8. 地域福祉の担い手２（行政・社会福祉協議会等の機能と役割）
9. 地域福祉の担い手３（当事者組織・NPO 法人、ボランティア等の機能と役割）
10. 地域福祉の担い手４（当事者組織・NPO 法人、ボランティア等の機能と役割）
11. 地域福祉の活動事例１
12. 地域福祉の活動事例２
13. 地域福祉の活動事例３
14. 地域におけるつながり・見守りのかたち
15. まとめ

【使用テキスト】	【評価方法】
プリント	試験 80%　授業への参加度 20%

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	対象学科
	○			生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

授業科目名	保健体育理論Ⅰ	担当者名	白井　俊光

授業形態 単位数	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
	2					●					

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、今後の健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。講義の中で、実際に身体を動かす場面やテーピング実技を行う場合もある。
成績評価	小テスト、授業態度、出席（減点法）などを総合的に評価する
その他	

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書	生涯スポーツトレーナー教本	水嶋昭彦、中尾繁樹、油谷信隆　監修	学校法人　国際学園　2015
参考図書			

回	授業計画
1	概論（2P～18P）
2	保健指導（22P～27P）
3	運動指導におけるコーチングについて（動画1本（30分））、スポーツ・コーチング学（170P～176P）60分講義
4	スポーツ・コーチング学（177P～190P）90分講義
5	
6	運動の必要性～基礎動作の重要性（動画3本（30分））　、正しい姿勢とプランク（動画1本（23分）） 全身を連動させた回旋動作について（動画1本（16分））
7	上肢の動き、下肢の動き（動画2本（30分））
8	解剖生理学（動画6本（37分））、解剖生理学（30P～46P）53分講義
9	機能解剖学（動画　本（30分））、解剖生理学（48P～71P）60分講義
10	機能解剖学（動画　本（30分））、解剖生理学（72P～94P）60分講義
11	スポーツ心理学①
12	スポーツ心理学②
13	法規（動画1本（21分））、生涯スポーツトレーナー基礎法規（192P～199P)40分講義
14	まとめ
15	終講試験

科目区分	基礎分野	専門基礎分野	専門分野	対象学科
	○			生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

授業科目名	保健体育理論Ⅱ	担当者名	白井　俊光

授業形態 単位数	講義	演習	実技	実習	履修年次等 授業時間数	1年次		2年次		3年次	
						前期	後期	前期	後期	前期	後期
	2						●				

授業概要	健康スポーツは身体を動かすことを楽しみ、生活に役立つ健康な身体と心を維持増進することを目的とする。適切な指導を行えることが、これからの健康の維持増進に必要不可欠であるため、子どもから高齢者の特徴について学んでいく。講義の中で、実際に身体を動かす場面やテーピング実技を行う場合もある。
成績評価	・小テスト、授業態度を総合的に評価する
その他	

使用教材	書籍名	著者名	出版社名
教科書/参考図書	生涯スポーツトレーナー教本 背骨コンディショニング 世界一わかりやすいパーソナルストレッチ 背骨コンディショニングパーソナルトレーナー教本 背骨コンディショニングインストラクター教本		

回	授業計画
1	タイトル不明　合同授業（油谷先生）
2	タイトル不明　合同授業（油谷先生）
3	タイトル不明　合同授業（岩澤先生）
4	タイトル不明　合同授業（岩澤先生）
5	背骨コンディショニング　合同授業（日野先生）（白井先生）
6	背骨コンディショニング　合同授業（日野先生）（白井先生）
7	世界一わかりやすいパーソナルストレッチ　合同授業（牧谷先生）
8	世界一わかりやすいパーソナルストレッチ　合同授業（牧谷先生）
9	子どもと高齢者の基礎知識（動画1本（30分））、高齢者の身体とトレーニング概論（150P～158P）60分講義
10	子どもと高齢者の基礎知識（動画1本（30分））、高齢者の身体とトレーニング概論（159P～168P）60分講義
11	子どもと高齢者の基礎知識（動画1本（30分））、こどもの身体とトレーニング（100P～119P）60分講義
12	発達障害と不器用さ（122P～134P）90分講義
13	発達障害と不器用さ（135P～147P）90分講義
14	まとめ
15	生涯スポーツトレーナーベーシック試験

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
アロマボディケア演習	（講義・演習・実習）	蓑田　のり子

授業の回数	時間数(単位数)	配当学年・時期	必修・選択
１５回	３０ 時間（1）	2年　後期	必修

[授業の目的・ねらい]

アクティビティケア実践のひとつとして対人援助職で役に立つリフレクソロジーを通じてコミュニケーション(対人関係)のあり方を学ぶとともに、足部・下腿部の施術・解剖基礎知識も合わせて学ぶ。

[授業全体の内容の概要]

卒業前の授業となるので、就職後にも役に立つ実践演習を取り入れながら講義を進めていきます。

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

身体の一部分だけを注目するのではなく、心と身体も一体であることを感じ取ることができる。

学生間で、実際に身体を触ることによって、コミュニケーションの大切さを理解することができる。

[授業のテーマ・内容]

1 オリエンテーション　リフレクソロジーの基礎知識(起源・ゾーンセラピーの誕生)
2 リフレクソロジーから期待できる効果・目的・関係法規
3 施術者の心構え、注意事項、痛みの反応と対処
4 足のアーチ構造と反射区、皮膚の基礎知識
5 事前準備・タオルワーク、リフレクソロジーの基本手技
6 四大軽擦～足関節の施術
7 足趾の施術Ⅰ～Ⅲ
8 足趾の施術Ⅰ～Ⅲ
9 足部内・外側～下腿の施術
10 コミュニケーションとカウンセリング
11 ケーススタディ
12 サロンシュミレーション ①
13 サロンシュミレーション ②
14 サロンシュミレーション ③
15 まとめと試験

[使用テキスト・参考文献]	[単位認定の方法及び基準]
配布資料	(試験やレポートの評価基準など) 試験80%出席10%レポート10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護の基本Ⅰ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前期	4	1 年次	橋本　協子	必修・選択　　必修

目的・概要	専門職による「介護」が誕生した経緯を知り、生活の視点から実践を通して介護支援の意義について学ぶ。「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに介護を必要とするがその人らしく生活できるように専門職としての能力を身につける
到達目標	1．介護実践の根拠が理解できる 2．環境整備等について理解し、利用者様ができる限りなじみのある環境で日常生活を送ることができるように支援する。 3．尊厳を支える介護とは何かを理解する
スケジュール	1・2　オリエンテーション　介護とは　介護に成り立ち 3・4　介護の概念の変遷 5・6　介護福祉の基本的理念 7・8　介護福祉士の活動の場と役割 9・10　介護の専門性　介護福祉士および社会福祉士法 11・12　「自立」・「自律」に向けた支援 13・14　社会福祉士を支える団体と介護サービスの種類 15・16　介護実践における倫理 17・18　自立支援と介護予防 19・20　その人らしい生活のニーズの理解 21・22　自らの「介護観」について考える 23・24　ICF の考え方 25・26　リハビリテーションの目的と役割 27・28　他者への共感的かかわり 29　まとめ　　30　テスト
事前・事後学習	毎回講義で配布する資料をきちんと整理し、次の講義までに復讐すること 事前にわからなかったことをまとめて質問する
教科書・参考	新・介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅰ　　中央法規出版 なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン　　中央法規出版 書いて覚える合格ドリル 2019　　中央法規出版
履修上注意	
評価方法	定期試験　８０％　　レポート提出　10%　授業態度　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護の基本Ⅱ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前期	4	2 年次	橋本　協子	必修・選択　　必修

目的・概要	介護福祉士の基本となる理念を踏まえて、「介護を必要とする人」の生活を支えるしくみを理解し、多職種連携の機能と役割を理解する。また専門職として利用者の生活に必要なサービスは何かを考えていく必要があるかを学ぶ。
到達目標	１．介護福祉士を必要とする人たちの暮らしえを理解する ２．高齢者・障碍者の生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）について学ぶ。 ３．介護サービスを提供する対象の利用者について理解し、適切な支援が実践できる
スケジュール	1・2　利用者の生活の理解 3・4　介護を必要とする人の事例をもとに歴史・背景について 5・6　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 7・8　生活を支えるフォーマルサービスよとは 9・10　地域連携の意義と目的 11・12　介護における安全の確保 13・14　感染症対策 15・16　多色連携・協働に求められる基本的な能力 17・18　保険・医療・福祉職の役割と機能 19・20　多職種連携・協働の実際 21・22　介護従事者の健康管理の意義と目的 23・24　介護従事者のこころの健康管理 25・26　介護従事者の身体の健康管理 27・28　介護従事者の労働環境の整備 29・30　まとめと確認テスト
事前・事後学習	毎回講義で配布する資料をきちんと整理し、次の講義までに復讐すること 事前にわからなかったことをまとめて質問する
教科書・参考	新介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ　　中央法規出版 なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン　　中央法規出版 書いて覚える合格ドリル 2019　　中央法規出版
履修上注意点	
評価方法	定期試験　８０％　　レポート提出　10%　授業態度　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護の基本Ⅲ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前期	4	2 年次	橋本　協子	必修・選択　　必修

目的・概要	介護福祉士の基本となる理念を踏まえて、「介護を必要とする人」の生活を支えるしくみを理解し、多職種連携の機能と役割を理解する。また専門職として利用者の生活に必要なサービスは何かを考えていく必要があるかを学ぶ。
到達目標	１．介護福祉士を必要とする人たちの暮らしえを理解する ２．高齢者・障碍者の生活を支えるフォーマルサービス（社会的サービス）について学ぶ。 ３．介護サービスを提供する対象の利用者について理解し、適切な支援が実践できる
スケジュール	1・2　利用者の生活の理解 3・4　介護を必要とする人の事例をもとに歴史・背景について 5・6　「その人らしさ」と「生活ニーズ」の理解 7・8　生活を支えるフォーマルサービスよとは 9・10　地域連携の意義と目的 11・12　介護における安全の確保 13・14　感染症対策 15・16　多色連携・協働に求められる基本的な能力 17・18　保険・医療・福祉職の役割と機能 19・20　多職種連携・協働の実際 21・22　介護従事者の健康管理の意義と目的 23・24　介護従事者のこころの健康管理 25・26　介護従事者の身体の健康管理 27・28　介護従事者の労働環境の整備 29・30　まとめと確認テスト
事前・事後学習	毎回講義で配布する資料をきちんと整理し、次の講義までに復讐すること 事前にわからなかったことをまとめて質問する
教科書・参考	新介護福祉士養成講座　介護の基本Ⅱ　　中央法規出版 なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン　　中央法規出版 書いて覚える合格ドリル 2019　　中央法規出版
履修上注意点	
評価方法	定期試験　８０％　　レポート提出　10%　授業態度　10%

授 業 概 要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業の担当者
コミュニケーション技術Ａ	（講義・演習・実習）	井上由紀子

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
15 回	30 時間　(2)	1 年　後期	必修

【授業の目的・概要】

介護福祉士は、コミュニケーション技術を用いて利用者の「尊厳」「人権」「人生」を守る介護を行うが、この介護実践を行う上で最も重要な技術が、コミュニケーションである。

また利用者の QOL を保障する介護サービスの提供には、介護福祉士をはじめとする利用者の生活支援に関わるすべての人々のコミュニケーションのあり方が重要である。

授業では、介護に必要なコミュニケーションの知識・技術を学ぶとともに、事例を通してコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

【到達目標】

1. 介護実践におけるコミュニケーションの意義・目的・役割を理解する。
2. 話を聴く技法を習得する。
3. 非言語的コミュニケーションの重要性を理解する。

【授業のテーマ・内容】

1. 介護福祉士実践におけるコミュニケーションの意義
2. 利用者・家族との関係づくり 1
3. 利用者・家族との関係づくり 2
4. コミュニケーションの実際 1－他者理解の基本は自己理解
5. コミュニケーションの実際 2－自分の感情を知る
6. コミュニケーションの実際 3－他者を理解するための基本情報
7. コミュニケーションの実際 4－他者を理解するための基本情報
8. コミュニケーションの実際 5－話を聴く技法
9. コミュニケーションの実際 6－話を聴く技法
10. コミュニケーションの実際 7－言語・非言語のコミュニケーションの実際
11. コミュニケーションの実際 8－感情表現を察する技法
12. コミュニケーションの実際 9－利用者の心に変化を与えるコミュニケーション
13. コミュニケーションの実際 10－ケアの場面から学ぶ
14. コミュニケーションの実際 11－家族とのコミュニケーション
15. テスト

【使用テキスト】	【評価方法】
最新介護福祉士養成講座 コミュニケーション技術 中央法規出版	試験 70%　　授業への参加度 30%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	コミュニケーション技術　B			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　　期	2	2 年次	井上由紀子	必修・選択　　必修

目的・概要	介護福祉士が利用者の特性に応じたかかわりをするには、介護の専門的知識や技術に裏付けされたコミュニケーションが求められる。近年の高度な科学技術の発展から、コミュニケーション支援のためのさまざまな機器（福祉用具）が開発されている。 利用者とのコミュニケーションで、介護福祉士に求められる基本的な姿勢は①ストレスを最小限にする②意思や希望を尊重する③判断能力を見極める④潜在能力や可能性を引き出す⑤人間関係を広げ維持する⑥社会参加の機会を確保する⑦その人にとって自立した生活を目指すなどであるが、その根底にあるのは利用者の尊厳を守ることにほかならない。
到達目標	① 利用者の特徴に応じたコミュニケーションを行う基本的な姿勢について理解できる ② 利用者の病気や障害の特徴を理解し、その人を取り囲む環境を学び、効果的なコミュニケーションの方法について理解できる ③ コミュニケーション支援のための福祉用具について理解できる
スケジュール	1．コミュニケーション障害の理解　① 2．コミュニケーション障害の理解　② 3．コミュニケーション障害のある利用者への対応① 4．コミュニケーション障害のある利用者への対応② 5．利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際① 6．利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際② 7．利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際③ 8．利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際④ 9．利用者の特性に応じたコミュニケーションの実際⑤ １０．　介護におけるチームのコミュニケーション １１．　記録 １２．　報告・連絡・相談① １３．　報告・連絡・相談② １４．　会議 １５．　まとめ
事前・事後学習	授業中に事後の学習課題と次回授業のための課題を提示する
教科書・参考書	新・介護福祉士養成講座５　「コミュニケーション技術」　　中央法規

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	生活支援技術Ａ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　　期	4	1 年次	柴田仁子	必修・選択　　必修

目的・概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術と知識を習得する。
到達目標	基本的な介護の知識、技術、態度を修得し、利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。
スケジュール	1.オリエンテーション　介護実習室見学 2.介護・介助の心構え、挨拶や言葉遣い 3.高齢者とは何か 4.休息・睡眠環境を整える、ベッドメイキング 5.ボディメカニクス、自立に向けた移動の介護 6.移動・移乗の介助における基本的な視点 7.移動　体位変換の介助と実際 8.移動　上方移動、水平移動、仰臥位⇔側臥位 9.移動　起き上がりから端座位から立位 10.移動　安楽　車いすについて 11.移動　椅子からの立位　歩行介助 12 移動　杖歩行等. 13.自立に向けた食事の介護　食事の介助とは 14.　〃　状態に応じた食事の介助　誤嚥予防 15.自立に向けた身じたくの介護　身じたくとは 16.自立に向けた身じたくの介護　　口腔ケア 17.　〃　衣服の着脱の介助 18.　〃　衣服着脱の介助の実際 19.移動　車いすの操作　戸外 20.　　〃 21.自立に向けた入浴・清潔保持の介護 22.　〃　道具・用具　　手浴、足浴 23.自立に向けた排泄の介護　意義と目的 24.　〃　排泄の方法　トイレでの排泄 25.　〃　排泄に関する様々な介助 26.　〃　おむつでの排泄の介助 27.ディケア・ディサービスでの介護技術 28.実技試験 29.実技試験 30.期末試験
事前・事後学習	時間中に提示する、課題レポートの事前、事後の記入
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6・7　　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ　　中央法規
履修上の留意	2 グループに分かれて、介護実習室で介護技術を行う。 自教室にいるグループは、提示された課題・レポートを行う。 まとめた課題・レポートのファイルを提出し、評価の対象とする。
評価方法	試験　60%　レポート　30%　　授業への参加度　10%

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
生活支援技術Ｂ	（講義・演習・実習）	上原　佳子

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必修・選択
30 回	60 時間（2）	2 年・前期	必修

【授業の目的・概要】

人間が健康な生活を営むために必要な五大栄養素の働きを理解する。高齢者・障がい者の身体的特徴を考慮しながら、介護福祉士が食の支援をするために必要な知識を養う。また、調理実習を通して調理の基礎を習得し、高齢者・障がい者が食べやすい料理について学ぶ。

【到達目標】

1. 五大栄養素の働きやバランスのとれた食事について理解できる。
2. 安全で衛生的な調理方法について理解できる。
3. 高齢者・障がい者にふさわしい食事形態を理解できる。
4. 基本的な調理操作ができる。

【授業のテーマ・内容】

1．日本の食文化と食生活の変化	16.　〃
2．栄養の理解①	17. 調理実習① 高齢者のための日本料理
3．栄養の理解②	18.　〃
4．献立の立て方	19. 調理実習② 高齢者のための西洋料理
5．食品の購入と選択	20.　〃
6．食品衛生	21. 調理実習③行事食
7．調理の基本	22.　〃
8．食品の調理性①	23. 調理実習④高齢者のための中国料理
9．食品の調理性②	24.　〃
10. 高齢者の身体機能と栄養①	25. 調理実習⑤介護食（嚥下障害）
11. 高齢者の食事と調理①	26.　〃
12. 高齢者の食事と調理②	27. 調理実習⑥介護食（咀嚼障害）
13. 障がいのある人の栄養と食生活	28.　〃
14. 疾患と食事	29. まとめ
15. 調理の基本（実習室の使い方・計量）	30. 試験

【使用テキスト】	【評価方法】
新・介護福祉士養成講座 6 生活支援技術Ⅰ　第 4 版	レポート提出 30%、授業・実習態度 10%、試験 60%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	生活支援技術Ｃ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　期	1	1 年次	石橋　真由美	必修・選択　　必修

目的・概要	・「介護」とは何か、さらに「自立に向けた介護」とは何かということを生活支援の視点から学ぶとともに実際に介護が行ういろいろな生活支援とその意義について学んでいく。 ・「尊厳の保持」「自立支援」という介護の考え方を理解するとともに介護を必要とする人を生活という視点から捉えていく。
到達目標	1. 生活支援の基本的な考え方を理解できる。 2. 家族・人と生活空間のかかわりについて理解し、住要求の変化に対応する住まいが求まられていることが理解できる。 3. 福祉用具を使用する意義が理解できる。 4. 介護保険制度の中でできる家事の範囲を理解する。 5. 被災地で活動する前に知っておくべきことを理解できる。
スケジュール	1. オリエンテーション　授業内容説明 2. 生活支援の基本的な考え方 3. ICF に基づく生活支援について 4. 生活支援とチームアプローチの重要性について 5. 住環境の整備（住まいの役割と機能） 6. 生活空間について 7. 快適な室内環境について 8. 安全に暮らす生活環境（災害に対する備え） 9. 高齢者・障害者の住まい 10. 住環境の整備における他職種との連携 11. 福祉用具の意義と重要性 12. 福祉用具体験学習　北九州福祉用具プラザ 13. 自立に向けた家事の介護（自立生活を支える家事） 14. 災害時における生活支援（災害地で活動する際の心構え） 15. まとめ　期末テスト
事前・事後学習	【事前学習】 講義毎に配布する資料はきちんと整理し次の講義までにノートにまとめること

教科書・参考書		出版社
	最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅰ	中央法規出版
	書いて覚える合格ドリル 2019	中央法規出版
	なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン	中央法規出版

評価方法	定期試験　80%　授業への取り組み　10%　レポート等提出物　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	生活支援技術D			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
後　　期	2	1 年次	柴田仁子	必修・選択　　必修

目的・概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術と知識を習得する。
到達目標	基本的な介護の知識、技術、態度を修得し、利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。
スケジュール	1.オリエンテーション　介護技術実践の心構え 2.認知症高齢者への生活支援とは 3.グループホームでの生活支援技術とその実践 4.介護現場のヒヤリハット 5.休息・睡眠の介護　睡眠とは 6.　〃　寝具の整え方　ベッドメイキング 7.移動の介護　体位変換の介助と実際 8.　〃　見守り，杖歩行、歩行器 9.　〃　事例研究 10.　〃　事例研究発表 11.排泄の介護　トイレでの排泄介助 12.　〃　パッド交換、おむつ交換 13.特養・老健での生活支援技術とその実践 14.介護現場でのヒヤリハット 15.身じたくの介護　清拭 16.身じたくの介護　整髪、爪の手当て、髭剃り 17.衣服着脱の介護　事例研究 18.　〃　事例研究発表 19.食事の介護の実際　食事を介助される体験 20.　〃 21.排泄の介護　事例研究 22.　〃　事例研究発表 23.生活支援技術の復習チェック 24.　〃 25.　〃 26.　〃 27.　〃 28.実技試験 29.実技試験 30.期末試験
事前・事後学習	時間中に提示する、課題レポートの事前、事後の記入
教科書	最新・介護福祉士養成講座　6　7　　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ　　中央法規
履修上の留意	2 グループに分かれて、介護実習室で介護技術を行う。自教室にいるグループは、提示された課題・レポートを記入する。まとめた課題・レポートのファイルを提出し、評価の対象とする。 事例研究は 3～4 名のグループで行い、発表する。
評価方法	筆記試験　60%、　レポート　30%　　授業への参加度　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	生活支援技術Ｅ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　　期	2	2 年次	柴田仁子	必修・選択　　必修

目的・概要	尊厳の保持や自立支援、生活の豊かさの観点から、本人主体の生活が継続できるよう、根拠に基づいた介護実践を行うための知識・技術を習得する学習とする。見守ることを含めた適切な介護技術を用いて、安全に援助できる技術と知識を習得する。
到達目標	基本的な介護の知識、技術、態度、および利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援と、その応用技術を修得する。介護の援助に応じた福祉用具、福祉機器の活用方法が習得できる。
スケジュール	1.オリエンテーション 2.利用者に応じた生活支援技術とは 3.障害に応じた介護・介助の心構え 4.ボディメカニクス　介護の原則 5.移動・移乗の介護　片麻痺の利用者 6.　〃　　仰臥位⇒側臥位 7.　〃　　車いす⇔ベッド 8.知的障害に応じた介護 9.障害者支援施設での生活支援の実際 10.　〃　上記レポートの報告会 11.視覚障害者に応じた介護　生活上の困りごと 12.　〃　歩行介助 13.聴覚・言語障害に応じた介護 14.　〃　生活上の困りごと　情報機器 15.重複障害<盲ろう>に応じた介護 16.演習　盲ろう重複障害のある人の理解 17.内部障害に応じた介護　心臓機能 18.　〃　呼吸器・腎臓・膀胱その他機能障害 19.重症心身障害に応じた介護 20.精神障害に応じた介護 21.高次脳機能障害に応じた介護 22.難病に応じた介護　ＡｌＳ、パーキンソン病 23.　〃　リウマチ　筋ジストロフィー 24.事例研究　片麻痺の利用者 25.事例研究発表 26.事例研究　肢体不自由の利用者 27.事例研究会 28.事例研究　高次脳機能障害の利用者 29.事例研究発表 30.期末試験
事前・事後学習	時間中に提示する、課題レポートの事前、事後の記入
教科書	最新・介護福祉士養成講座　8　　生活支援技術Ⅲ　　中央法規
履修上の留意	介護実習室での実技は 2 グループに分かれて行う。 事例研究は 3～4 名のグループで行い、発表する。
評価方法	筆記試験　60%、　レポート　30%　　授業への参加度　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	生活支援技術Ｆ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　期	2	2 年次	石橋　真由美	必修・選択　　必修

目的・概要	・運動機能障害のある人の尊厳保持の観点を踏まえ潜在能力を引き出し、見守りを含めた適切な介護技術を用い安全に援助できる知識や技術を修得する。 ・利用者の状態・状況に応じた介護の留意点と援助方法を学習する。 ・疾患を持つ人の観察の視点と援助方法を学ぶ。
到達目標	高齢者だけでなく、障害者（児）の理解も深め、人間としての尊厳を理解することができる。
スケジュール	1. オリエンテーション　授業内容説明 2. 人間の健康と疾患・障害の関連性 3. 運動機能障害のある人の状況 4. 運動機能障害の状態像と原因 5. 疾患が人に与える影響と観察の視点① 6. 疾患が人に与える影響と観察の視点② 7. 高齢者の健康状態と介護を必要とする人の特徴① 8. 高齢者の健康状態と介護を必要とする人の特徴② 9. 運動機能低下が与える影響と介護の留意点（移動に与える影響） 10. 運動機能低下が与える影響と介護の留意点（身支度、入浴、清潔保持に与える影響） 11. 運動機能低下が与える影響と介護の留意点（食事に与える影響） 12. 運動機能低下が与える影響と介護の留意点（排泄に与える影響） 13. 運動機能低下が与える影響と介護の留意点（家事、睡眠に与える影響） 14. 総まとめ、グループ発表 15. 期末テスト
事前・事後学習	【事前学習】 講義毎に配布する資料はきちんと整理し次の講義までにノートにまとめること

教科書・参考書		出版社
	最新・介護福祉士養成講座　生活支援技術Ⅲ	中央法規出版

評価方法	定期試験　80%　授業への取り組み　10%　レポート等提出物　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護過程Ⅰ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前期・後期	4	1年次	橋本　協子	必修・選択　　必修

目的・概要	利用者へ適切な支援を提供するためには、専門職・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程が必要となる。介護過程の目的と方法について学び、それを展開する意義について理解する。
到達目標	・介護の意義が理解でき、一連の過程を説明できる。 ・社会資源を活用し、介護・医療・保健との連携協同を生かした介護実践計画を展開できる。 ・チームアプローチの重要性について理解できる。
スケジュール	1・2　オリエンテーション「課題解決思考」を用いた考え方 3・4　介護過程の意義と目的 5・6　介護過程の構成要素 7・8　介護のプロセス介護過程の基本的視点 9・10　アセスメント（情報収集） 11・12　情報の解釈・関連付け、情報の統合化 13・14　個別援助計画とは 15・16　介護過程の展開（生活支援の課題・目標の捉え方の実際 17・18　個別援助計画の立案　事例① 19・20　個別援助計画の立案　事例①　発表 21・22　個別援助計画の立案　事例②　（施設）認知症の理解 23・24　個別援助計画の立案　事例② 25・26　個別援助計画の立案　事例②　発表 27・28　介護過程の展開の実施の準備　支援内容・方法　留意点 29　介護過程の実施の記録についてまとめ 30　テスト
事前・事後学習	授業終了時に出された課題は、指定期日までに作成し、提出する。
教科書・参考書	介護福祉士養成テキスト　介護過程の展開 介護福祉士基本研修テキスト
履修上の留意点	復習を行うこと。 また、演習課題は評価の対象なので、提出がなければ成績に影響する。
評価方法	定期試験 50%　　課題提出 50%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護過程Ⅱ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前　期	2	2 年次	石橋　真由美	必修・選択　　必修

目的・概要	・介護過程では、専門知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解する。 ・利用者の望む生活の実現を支援するための課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価・他職種協同によるチームアプローチの必要性について習得する。
到達目標	1. 介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 2. 社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携を活かした介護実践計画を展開できる。 3. 根拠に基づいた介護計画が立案できる。 4. チームアプローチの重要性について説明できる。
スケジュール	1. オリエンテーション　介護過程の実践的展開について説明 2. 1年次に学習した内容のふり返り（介護過程の理解・アセスメント・介護計画の立案） 3. 介護過程の実践的展開　日常的アセスメント 4. 介護過程の実践的展開　日常的アセスメント　まとめ 5. 個別援助計画の立案とは 6. 個別援助計画の立案　事例①（施設）日常生活に支障のある利用者 7. 個別援助計画の立案　事例① 8. 個別援助計画の立案　事例①　発表 9. 個別援助計画の立案　事例②（施設）認知症の利用者 10. 個別援助計画の立案　事例② 11. 個別援助計画の立案　事例②　発表 12. 介護計画の実施準備　支援内容・方法 13. 介護計画の実施の際の留意点 14. 介護計画の記録について① 15. 介護計画の実施の記録②　まとめ　テスト
事前・事後学習	【事前学習】 ・配布資料を基に事前及び事後の学習

教科書・参考書		出版社	
	最新・介護福祉士養成講座　介護過程の展開		中央法規出版
	書いて覚える合格ドリル 2019		中央法規出版
	なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン		中央法規出版

評価方法	定期試験　70%　授業への取り組み　20%　レポート等提出物　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護過程Ⅲ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
後　期	4	2 年次	石橋　真由美	必修・選択　　必修

目的・概要	・介護過程では、専門知識・技術を統合し科学的思考過程に基づいた展開について理解する。 ・利用者の望む生活の実現を支援するための課題と解決について、アセスメント、自立支援に沿った介護計画の立案・実施・評価・他職種協同によるチームアプローチの必要性について習得する。
到達目標	1. 介護の意義が理解でき一連の過程を説明できる。 2. 社会資源を活用し、介護、医療、保健との連携を活かした介護実践計画を展開できる。 3. 根拠に基づいた介護計画が立案できる。 4. チームアプローチの重要性について説明できる。
スケジュール	1. 実習における介護過程の展開（情報の収取１） 2. 介護における介護過程の展開（情報の収集 2） 3. 実習における介護過程の取り組み① 4. 実習における介護過程の取り組み② 5. 実習事例記録まとめ（提出の確認） 6. 実習事例記録のまとめ① 7. 実習事例記録のまとめ② 8. 実習事例記録のまとめ③ 9. 実習事例記録のまとめ④確認提出 10. 実習事例記録作成① 11. 実習事例記録作成② 12. 実習事例記録作成③ 13. 実習事例記録作成④確認提出 14. 介護過程記録作成① 15. 介護過程記録作成② 16. 介護過程事例問題① 17. 介護過程事例問題② 18. 介護過程事例問題③ 19. 介護過程事例問題④ 20. 介護過程事例問題⑤ 21. 介護過程事例問題⑥ 22. 介護福祉士介護過程国家試験問題① 23. 介護福祉士介護過程．国家試験問題② 24. 事例発表準備① 25. 事例発表準備② 26. 事例発表① 27. 事例発表② 28. 事例発表① 29. 事例発表総括 30. まとめ　レポート
事前・事後学習	【事前学習】 ・配布資料を基に事前及び事後の学習

教科書・参考書		出版社
	最新・介護福祉士養成講座　介護過程の展開	中央法規出版
	書いて覚える合格ドリル 2010	中央法規出版
	なぞって覚える介護福祉士 30 日レッスン	中央法規出版

評価方法	介護過程事例研究　70%　授業への取り組み　20%　レポート等提出物　10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	介護総合演習Ⅰ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
後　期	4	1 年次	石橋　　真由美	必修・選択　　必修

目的・概要	介護の拠点となる知識や技術の基本を理論的に学ぶ。知識や技術の基本を踏まえて学内で実際に取り組む。最先端の現場で、学校で学んだ事や身に着けた技術を実践し、自分自身の力量を試し、振り返り、学習課題をつかむ。多くの学びを得るために必要な目標の明確化、行動の計画、主体的な体験、評価のための記録等具体的に学ぶ。
到達目標	・高齢者介護に必要な整容、言葉使い等の知識を身に着ける。 ・生活支援の幅の広さを体験し、そこで働く関連職種との関わり合い、又利用者が安心して暮らしていくためにはどの様な支援ができるか等を、実習をすることで理解ができる。
スケジュール	1・2　介護実習前オリエンテーション（施設への提出物確認・事前訪問についての注意事項等） 3・4　実習直前指導① 5・6　実習振り返り①（実習先施設の理解） 7・8　実習報告会準備① 9・10　実習報告会① 11・12　特別養護老人ホームと介護老人保健施設について 13・14　実習直前指導② 15・16　実習振り返り②（実習先施設の理解） 17・18　実習報告会準備② 19・20　実習報告会② 21・22　障がい者施設について①（障害者更生施設　障害者授産施設） 23・24　障がい者施設について②（生活施設　地域利用施設） 25・26　1-D 実習の目的と意義について 27・28　実習計画書作成 29　まとめ 30　レポート
事前・事後学習	授業事前課題について学習し、介護実習がスムーズにできるようにしておく。

教科書・参考書		出版社	
	実習の手引き		九州医療スポーツ専門学校 生涯スポーツトレーナー介護福祉学科
	新・介護福祉士養成講座 介護総合演習・介護実習		中央法規

評価方法	核施設実習評価 70%　　授業への取り組み 20%　　レポート提出 10%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td colspan="4">介護総合演習Ⅱ</td></tr>
<tr><td>期　別</td><td>単 位 数</td><td>開講年次</td><td>担 当 教 員</td><td>授業の種目（　講義・演習・実習　）</td></tr>
<tr><td>前　期</td><td>2</td><td>2 年次</td><td>石橋　　真由美</td><td>必修・選択　　必修</td></tr>
<tr><td>目的・概要</td><td colspan="4">介護の拠点となる知識や技術の基本を理論的に学ぶ。知識や技術の基本を踏まえて学内で実際に取り組む。最先端の現場で、学校で学んだ事や身に着けた技術を実践し、自分自身の力量を試し、振り返り、学習課題をつかむ。多くの学びを得るために必要な目標の明確化、行動の計画、主体的な体験、評価のための記録等具体的に学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">・高齢者介護に必要な整容、言葉使い等の知識を身に着ける。
・生活支援の幅の広さを体験し、そこで働く関連職種との関わり合い、又利用者が安心して暮らしていくためにはどの様な支援ができるか等を、実習をすることで理解ができる。</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td colspan="4">1. 介護実習前オリエンテーション　Ⅰ－A・B・C 実習振り返り
2. 実習直前指導①　実習先施設の理解（障害者支援施設）
3. 実習直前指導②　実習の心得
4. 実習先障害者施設の概要について
5. 実習振り返り
6. 実習報告会準備①　実習先紹介資料作成
7. 実習報告会準備②　資料作成　リハーサル
8. 実習報告会
9. 実習Ⅱのねらい
10. 介護過程の展開を軸にした実習の目的
11. 目標①介護に必要な情報収集方法
12. 目標②利用者の生活課題を明確化の方法
13. 目標③介護計画の立案の方法
14. 目標④自立に配慮した介護の実践の方法
15. まとめ　レポート</td></tr>
<tr><td>事前・事後学習</td><td colspan="4">授業事前課題について学習し、介護実習がスムーズにできるようにしておく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書・参考書</td><td>実習の手引き</td><td rowspan="2">出版社</td><td colspan="2">九州医療スポーツ専門学校
生涯スポーツトレーナー介護福祉学科</td></tr>
<tr><td>新・介護福祉士養成講座
介護総合演習・介護実習</td><td colspan="2">中央法規</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">施設実習評価 70%　　授業への取り組み 20%　　レポート提出 10%</td></tr>
</table>

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

<table>
<tr><td>科　目　名</td><td colspan="4">介護総合演習Ⅱ</td></tr>
<tr><td>期　別</td><td>単 位 数</td><td>開講年次</td><td>担 当 教 員</td><td>授業の種目（　講義・演習・実習　）</td></tr>
<tr><td>後　期</td><td>2</td><td>2 年次</td><td>石橋　　真由美</td><td>必修・選択　　必修</td></tr>
<tr><td>目的・概要</td><td colspan="4">介護の拠点となる知識や技術の基本を理論的に学ぶ。知識や技術の基本を踏まえて学内で実際に取り組む。最先端の現場で、学校で学んだ事や身に着けた技術を実践し、自分自身の力量を試し、振り返り、学習課題をつかむ。多くの学びを得るために必要な目標の明確化、行動の計画、主体的な体験、評価のための記録等具体的に学ぶ。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="4">・高齢者介護に必要な整容、言葉使い等の知識を身に着ける。
・生活支援の幅の広さを体験し、そこで働く関連職種との関わり合い、又利用者が安心して暮らしていくためにはどの様な支援ができるか等を、実習をすることで理解ができる。</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td colspan="4">1. 介護実習Ⅱ　直前指導①　心構え　実習先概要作成
2. 実習直前指導②　介護過程の展開：事例を通じて介護に必要な情報の収集の復習
3. 実習直前指導③　生活課題の明確化について（介護計画作・記録の書き方確認）
4. 実習直前指導④　実習Ⅱでの目標の達成度について
5. 実習振り返り（介護実習Ⅱの実習報告書作成）
6. 実習報告会準備①（グループ毎に事例をもとに情報収集）
7. ～10（グループ毎に事例での介護計画作成）
11. 実習報告会リハーサル
12. 実習報告会
13. 高齢者・障害者介護実践のまとめ①
14. 高齢者・障害者介護実践のまとめ②
15. まとめレポート</td></tr>
<tr><td>事前・事後学習</td><td colspan="4">授業事前課題について学習し、介護実習がスムーズにできるようにしておく。
実習報告会にむけての取り組みを体験を通して発表できるようにしておく。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">教科書・参考書</td><td colspan="2">実習の手引き</td><td rowspan="2">出版社</td><td>九州医療スポーツ専門学校
生涯スポーツトレーナー介護福祉学科</td></tr>
<tr><td colspan="2">新・介護福祉士養成講座
介護総合演習・介護実習</td><td>中央法規</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="4">施設実習評価 70%　　授業への取り組み 20%　　レポート提出 10%</td></tr>
</table>

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

<table>
<tr><td colspan="2">科　目　名</td><td colspan="4">介護実習</td></tr>
<tr><td colspan="2">期　別</td><td>単 位 数</td><td>開講年次</td><td>担 当 教 員</td><td>授業の種目（　実習　）</td></tr>
<tr><td colspan="2">前　　期</td><td>15</td><td>1・2 年次</td><td></td><td>必修・選択　　必修</td></tr>
<tr><td>目的・概要</td><td colspan="5">実際の介護の現場に出向いて、介護を必要としている人たちとコミュニケーションを図り、現場で働かれている人たちのお手伝いをする。</td></tr>
<tr><td>到達目標</td><td colspan="5">基本的な介護の知識、技術、態度を修得し、利用者の状態に応じた適切な技法を活用した支援ができる。</td></tr>
<tr><td>スケジュール</td><td colspan="3">（1 年次／224 時間）
オリエンテーション
デイサービス施設や介護老人保健施設などに出向いての実習
実習記録の作成
振り返り
総括</td><td colspan="2">（2 年次／224 時間）
オリエンテーション
デイサービス施設や介護老人保健施設などに出向いての実習
実習記録の作成
振り返り
総括</td></tr>
<tr><td>事前・事後学習</td><td colspan="5">施設で指示された課題の作成
実習中に指示された課題の作成
実習記録の作成</td></tr>
<tr><td>教科書</td><td colspan="5">最新・介護福祉士養成講座　6・7　　生活支援技術Ⅰ・Ⅱ　　中央法規</td></tr>
<tr><td>履修上の留意</td><td colspan="5">まとめた課題・レポートのファイルを提出し、評価の対象とする。</td></tr>
<tr><td>評価方法</td><td colspan="5">試験　60%　レポート　30%　　授業への参加度　10%</td></tr>
</table>

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	障害の理解　A			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前期・後期	4	2年 次	橋本　協子	必修・選択　　必修

目的・概要	障害のある人の思いや生活形態を踏まえて、障害の概念について学ぶ。障害者福祉の基本理念となるノーマライゼーション、リハビリテーション、インクルージョンについて理解する。 　視覚障害、聴覚・言語障害のある人の身体面・精神面および重症心身障害のある人について、医学的理解・心理的理解・生活の介護上の留意点を学ぶ。
到達目標	・障害の概念について理解し、障害者福祉の基本理念について説明できる。 ・視覚障害、聴覚・言語障害、重複障害のある人を、医学的・心理的・生活面から理解する。 ・肢体不自由（運動機能障害）、重複障害のある人の、医学的・心理的・生活面から理解する。
スケジュール	1・2　障害の定義の捉え方 3・4　ノーマライゼーションとは 5・6　障碍者福祉の基本理念 7・8　障碍者総合支援法 9・10　障碍者福祉制度と介護保険制度 11・12　障害のある人の心理 13・14　肢体不自由（運動機能障害） 15・16　視覚障害（聴覚・言語障害） 17・18　重複障害とは 19・20　内部障害（心機能障害） 21・22　呼吸機能障害・腎機能障害 23・24　膀胱・直腸機能障害 25・26　肝機能障害 27・28　重症心身障害 29・30　まとめ　確認テスト
事前・事後学習	【事前学習】 ・配布資料を基に事前及び事後学習
教科書・参考	介護福祉養成講座　　障害の理解　中央法規 書き込み式介護福祉士合格ノート　2019 介護福祉ワークブック 2017　ミネルバ書房
履修上の留意点	
評価方法	定期試験　80%　授業への取り組み　20%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	こころとからだのしくみⅠ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前後期	4	1 年次	宮本　明美	必修・選択　必修

目的・概	・こころとからだの両面から利用者の状態をみて、その状態がどのような要因から引き起こされているのか、その根拠となる知識について学ぶ。
到達目標	・人体の構造や機能を理解する ・介護を必要とする人の生活支援について根拠を考えることができる
スケジュール	1.2　科目概要説明、「健康」とは何か 3.4　人間の欲求とは（マズロー欲求階層説） 5.6　自己実現と尊厳（ライフステージ、発達段階） 7.8　こころのしくみの基礎（脳のしくみ） 9.10　こころのしくみ（学習・記憶・思考・感情・認知・意欲・動機・適応） 11.12　〃 13.14　からだのしくみテキスト、DVD 学習 15.16　からだのしくみ（細胞・遺伝・脳神経） 17.18　〃　（脳神経・からだの各部位の名称） 19.20　〃　（骨・筋・感覚器） 21.22　〃　（呼吸器） 23.24　〃　（消化器・泌尿器・生殖器・内分泌） 25.26　〃　（循環器・血液体液・リンパ） 27.28　まとめ・テスト対策 29　国家試験問題テストと解説 30　試験・解説
事前・事後学習	・参考資料を用い授業内に確認テスト及び解答、解説を行う ・テキストを利用し演習、グループワーク ・課題
教科書・参考書	最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規 参考：人体の不思議 介護福祉士国試ナビ・2019 書いて覚える合格ドリル・受験ワークブック下
履修上の留意点	・確認テストにて個人の理解力の把握 ・視覚教材の利用 ・発問
評価方法	・試験 80 点 ・出席率 10 点 ・課題提出 10 点

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	こころとからだのしくみⅡ			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
前後期	4	2 年次	宮本　明美	必修・選択　　必修

目的・概要	・1 年次に学んだこころとからだのしくみについて、さらに知識を深める。こころとからだの両面から利用者の状態をみて、その要因と応用的な知識について学ぶ。
到達目標	・人体の構造や機能を理解する ・介護を必要とする人の生活支援について根拠を考えることができる
スケジュール	1.2　科目概要説明、こころの健康 3.4　からだの健康 3.4　さまざまな人間の欲求の考察 5.6　発育段階における自己実現 7.8　人間の尊厳 9.10　こころのしくみ（学習・記憶・思考・感情・認知・意欲・動機・適応）の探究 11.12　こころの仕組みの基礎（脳のしくみ）復習 13.14　からだのしくみ（細胞・遺伝・脳神経）各論、年齢による変化 15.16　からだのしくみ（骨・筋）各論、年齢による変化 17.18　〃　（感覚）各論、年齢による変化 19.20　〃　（呼吸器）各論、年齢による変化 21.22　〃　（消化器・泌尿器・生殖器・内分泌）各論、年齢による変化 23.24　〃　（循環器・血液体液・リンパ）各論、年齢による変化 25.26　〃　総復習 27.28　まとめ・テスト対策 29　国家試験問題テストと解説 30　試験・解説
事前・事後学習	・参考資料を用い授業内に確認テスト及び解答、解説を行う ・テキストを利用し演習、グループワーク ・課題
教科書・参考書	最新介護福祉士養成講座 11「こころとからだのしくみ」中央法規 参考：人体の不思議 介護福祉士国試ナビ・2019 書いて覚える合格ドリル・受験ワークブック下
履修上の留意点	・確認テストにて個人の理解力の把握 ・視覚教材の利用 ・発問
評価方法	・試験 80 点 ・出席率 10 点 ・課題提出 10 点

授　業　概　要

授業のタイトル（科目名）	授業の種類	授業担当者
認知症の理解	（講義・演習・実習）	池田　友恵

授業の回数	時間数（単位数）	配当学年・時期	必須・選択
30 回	60 時間（4）	1 年　前期	必須

【授業の目的・概要】

１．認知症の基礎知識を習得し、認知症の人を中心に据え、本人や家族、地域の力を活かした認知症ケアについて理解するための基礎的な知識を習得する。

２．認知症の人の心理や身体機能、社会的側面に関する基礎的な知識を習得し、本人・家族、地域の力を活かした認知症ケアについて学ぶ。

【到達目標】

１・２．認知症ケアの歴史や理念を含む認知症を取り巻く社会的環境について理解できる

３・４．医学的側面から見た認知症の基礎知識について理解できる

５・６．医学的・心理的側面から認知症の原因となる疾患及び段階に応じた心身の変化や心理症状を理解できる。

【認知症を取り巻く状況】

７・８．認知症とは何か、認知症ケアの歴史

９・10．認知症ケアの理念・視点

11・12．認知症高齢者の現状と今後、認知症に関する行政の方針と施策

13・14．振り返り

【医学的側面から見た認知症の基礎】

15・16．認知症の人の行動

17・18．認知症の人の心理状態

19・20．脳のしくみ

21・22．認知症の原因疾患

23・24．振り返り

25・26．認知症の診断、治療、認知症の予防

27．認知症の人の心理的理解

28．認知症サポーターについて（柴田先生）

29．振り返り

30．まとめ試験

【使用テキスト】	【評価方法】
新介護福祉士養成講座 12 『認知症の理解』　中央法規	試験 70% 授業への参加度 10% レポート・ホームワーク 20%

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	発達と老化の理解			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（ 講義・演習・実習 ）
後期	4	1 年次	宮本　明美	必修・選択　　必修

目的・概要	・成長、発達の観点から老化を理解し、老化に関する心理や身体機能の変化およびその特徴に関する基礎的な知識を習得する ・高齢者に多い疾病や老化に伴う機能低下が及ぼす日常生活への影響などを理解し生活支援技術の根拠となる知識を習得する
到達目標	・人間の成長と発達の基礎的知識を理解することができる ・老化が及ぼす日常生活への影響を理解することができる ・高齢者に多い疾患とその日常生活上の留意点を理解することができる
スケジュール	1：発達と老化の理解とは 　人間の成長と発達の基礎的知識（発達とは、老化とは、成長・発達に影響する因子） 2.3：人間の発達段階と発達課題（ピアジェ、エリクソン、ハビガースト） 4：身体的・心理的・社会的機能の成長と発達 　老年期の特徴と発達課題、老化にともなうこころとからだの変化と生活 5.6：高齢者の症状・疾患の特徴（閉じこもり、廃用症候群、老年症候群） 7.8：高齢者に多い疾患・症状：骨筋系（骨粗しょう症、骨折、変形性質関節炎）と対策 9.10：高齢者に多い疾患・症状：脳神経系（パーキンソン病、脳血管疾患：脳出血、脳梗塞）と対策 11.12：高齢者に多い疾患・症状：皮膚感覚器系（白内障、難聴、脱水、ドライスキン）と対策 13.14：高齢者に多い疾患・症状：循環器系（高血圧および伴って起こる疾患）と対策 15.16：高齢者に多い疾患・症状：循環器系（動脈硬化、心不全、糖尿病）と対策 17.18：高齢者に多い疾患・症状：呼吸器系（肺炎、COPD） 19.20：高齢者に多い疾患・症状：消化器系（ピロリ菌、逆流性食道炎、肝硬変）と対策 21.22：高齢者に多い疾患・症状：腎泌尿器系（前立腺肥大、尿路感染症、腎不全）と対策 23.24：高齢者に多い疾患・症状：内分泌・代謝系（糖尿病と合併症） 25.26：高齢者に多い疾患・症状：歯・口腔系（齲歯、ドライマウス）　悪性症候群 27.28：高齢者に多い疾患・症状：感染症、精神疾患、その他 29：まとめ、テスト対策 30：終講試験、解答・解説
学習	演習課題
教科書 参考書	最新介護福祉士養成講座 12「発達と老化の理解」中央法規 介護福祉士国試ナビ・2019 書いて覚える合格ドリル・受験ワークブック下
履修上の留意点	・確認テストにて個人の理解力の把握 ・演習を各自行いグループワーク（人の話や考えに耳を傾ける、考え方の違いを知る） ・発問
評価方法	・試験 80 点 ・出席率 10 点 ・課題提出 10 点

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	医療的ケアⅠ　（講義）			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　演習・講義・実習　）
後期	2	1年次	宮本　明美	必修・選択　　必修

目的・概要	目的：医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な基礎知識を習得する 概要：職業倫理、医療的ケアを必要とする利用者やその家族の気持ち、医療従事者との連携の大切さと安全性、制度など医療ケアを行うに必要な知識、価値、技術を教授する
到達目標	・社会福祉士及び介護福祉士法に規定する医療的ケアの業務を果たせるための基礎的知識を習得するとともに価値観や倫理観を習得する
スケジュール	1.オリエンテーション 2.　医療的ケアとは 3.　安全なケアとは 4.　医療従事者との連携 5.　医療的ケアに必要な基礎知識 6.　医療的ケアを行う上での心得 7.　口腔内ケアとは 8.　鼻腔内ケアとは 9.　気管カニューレの基礎 10.　経管栄養の基礎 11.　経鼻経管栄養の基礎 12.　胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養の基礎 13.　救急蘇生 14.　まとめ 15.　終講試験
事前・事後学習	課題の提出
教科書・参考書	介護福祉士実務者研修テキスト第5巻　医療的ケア　中央法規
履修上の留意点	・技術チェック表にて個人の手技の確認 ・視覚教材の利用 ・発問
評価方法	・試験60点 ・課題40点

九州医療スポーツ専門学校　生涯スポーツトレーナー介護福祉学科

科　目　名	医療的ケアⅡ　（演習）			
期　別	単 位 数	開講年次	担 当 教 員	授業の種目（　講義・演習・実習　）
前期	2	2 年次	宮本　明美	必修・選択　　必修

目的・概要	目的：医療的ケアを安全・適切に実施するために必要な知識・技術を習得する 概要：職業倫理、医療的ケアを必要とする利用者やその家族の気持ち、医療従事者との連携の大切さと安全性、制度など医療ケアを行うに必要な知識、価値、技術を教授する
到達目標	・社会福祉士及び介護福祉士法に規定する医療的ケアの業務を果たせるための基礎的知識と技術を習得するとともに価値観や倫理観を習得する
スケジュール	1.2　医療的ケア実施の基礎についてのオリエンテーション 3.4　喀痰吸引実施手順解説　（テキスト・DVD） 5.6　口腔内の喀痰吸引（手順確認） 7.8　〃　（演習）※5 回以上 9.10　鼻腔内吸引（手順確認） 11.12　〃　（演習）※5 回以上 13.14　気管カニューレ（手順確認） 15.16　〃　（演習）※5 回以上 17.18　経管栄養実施手順解説　（テキスト・DVD） 19.20　経鼻経管栄養（手順確認） 21.22　〃　（演習）※5 回以上 23.24　胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養（手順確認） 25.26　〃　（演習）※5 回以上 27.28　救急蘇生法（講義・演習）※1 回以上 29　まとめ 30　終講試験
事前・事後学習	1 年次の資料まとめ復習
教科書・参考書	介護福祉士実務者研修テキスト第 5 巻　医療的ケア　中央法規
履修上の留意点	・技術チェック表にて個人の手技の確認 ・視覚教材の利用 ・発問
評価方法	・技術チェック 60 点 ・試験 40 点